

2022年11月度 高島屋営業報告

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、営業報告で開示する売上高につきましては、従来の基準（総売上高）で開示しております。

〔売上高 総計〕

	(前年比 単位:%)
(株)高島屋 計 ※1	+6.0
(株)高島屋 および 国内百貨店子会社 計	+5.3

〔店舗・事業部別 概況〕

		(前年比 単位:%)			
	売上高	入店客数		売上高	入店客数
大阪店	+8.9	+14.9	大宮店	+1.2	△6.9
堺店	△2.7	+2.4	柏店 ※2	△0.4	△2.8
京都店 ※2	+2.7	△1.7	(株)高島屋 各店計	+6.6	+1.4
泉北店	△1.6	△3.8	岡山高島屋	△3.6	+1.8
日本橋店	+5.6	+0.9	岐阜高島屋	△13.3	+0.1
横浜店 ※2	+2.5	+0.2	高崎高島屋	+3.9	△0.9
新宿店	+27.6	+8.6	(株)高島屋 各店 および 国内百貨店子会社 計	+5.8	+1.4
玉川店	+4.6	△5.8	法人事業	+0.1	
立川店	△2.1	△10.3	クロスメディア事業	△4.3	

※1. (株)高島屋の売上高は、(株)高島屋各店、法人事業、クロスメディア事業を含みます。

※2. 京都店は「洛西店」、柏店は「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」、横浜店は「タカシマヤ フードメゾン 新横浜店」の売上高をそれぞれ含みます。

〔商品別売上高〕

		(前年比 単位:%)			
	(株)高島屋	(株)高島屋 および 国内百貨店子会社		(株)高島屋	(株)高島屋 および 国内百貨店子会社
衣料品	+3.7	+3.0	食料品	+0.7	+0.6
紳士服・洋品	+0.9	+0.5	生鮮食品	△2.0	△2.1
婦人服・洋品	+7.4	+6.3	菓子	+6.9	+6.6
子供服・洋品	△2.2	△2.0	惣菜	+2.3	+2.4
その他衣料品	△18.4	△18.8	その他	△4.9	△5.0
身のまわり品	+23.9	+21.6	食堂・喫茶	+4.3	+4.5
家庭用品	+1.3	△0.4	雑貨	+7.5	+7.0
家具	△6.8	△10.8	化粧品	+7.9	+7.2
家電	+56.7	+61.9	美術・宝飾品・貴金属	+8.0	+7.7
その他家庭用品	△2.7	△3.7	その他	+4.7	+3.8
			サービス	+1.1	+1.0
			その他	△3.8	△3.9
			合計	+6.0	+5.3

○百貨店は、ラグジュアリーブランドをはじめとする高額品が好調であることに加え、入国規制の緩和によるインバウンド売上の大幅な増加もあり、前年実績を上回りました。

	前年比	2019年比	2018年比
店頭売上	+5.8%	+0.6%	△3.7%
免税売上	+320.9%	△20.7%	△31.0%
免税を除いた店頭売上	+2.0%	+1.9%	△1.7%

※2019年10月の消費増税の影響が生じるため、2018年比を記載しております。

○12月の店頭売上は、14日までの累計で前年比+3.8%（2019年比△1.2%）、免税売上は前年比+391.9%（同△2.4%）、免税を除いた店頭売上は前年比△0.2%（同△1.2%）で推移しています。